

ことば通信

2025年2月3日発行
ことばの教室学級便り【臨時号】
町田市立成瀬中央小学校
校長 渡辺 利江子
ことばの教室 狩野・松本・小林・鑑水

1月15日(水)第2回吃音交流会では、ことばの教室卒業生3名にお越しいただき、「どちらかというどっち」「トークタイム」などの活動を通して交流を行いました。また、中学・高校・大学での様子も話してもらいました。トークタイムでは、吃音について感じていること、高学年・進学に向けて気になること、中学・高校・大学での様子についてが話題となり、卒業生たちからの話を、子どもたちはとても熱心に聞いていました。ことばの教室に通っている一人一人の子が、色々な世代にたくさんの仲間がいることを感じられ、つながれた心温かい会になったと思います。

今回は残念ながら参加できなかった卒業生からも、在級生に向けて、質問の返事やメッセージが届いているので、交流会当日に話があった内容と一緒に紹介します。

〈Q〉いつから吃音がありますか？また、ことばの教室に通い始めたのはいつからですか？

- ・吃音は3歳ごろ、ことばの教室は小1から。 ・吃音は5歳ごろ、ことばの教室は小2から。
- ・吃音は7歳ごろ、ことばの教室は小3から。

〈Q〉小学生の頃から吃音の症状の変化はありましたか？(中学何年生からなど分かれば)

また、現在の吃音の様子はどうですか？

- ・中学生になって減ったと思う。友達と話しているときは自分なりに吃音をコントロールできるようになった。
- ・家族と話すときは力が抜けて安心する感じがするので、人前で話すときよりも家では吃音は出ていると思う。
- ・3～5年生のときが1番ひどかった。言葉を言い換えるなどして、言葉が増えた時期ともなった。
- ・大学の音読では、友達に最初だけ一緒に読んでもらったりして乗り越えている。

〈Q〉小学校より中学校・高校・大学の方が人前で話す機会は多いですか？

- ・PCを使って自分の考えを発表したり、理科の実験時にやり方を話し合ったりするときなどに班で話し合う機会や、班の中で発表することが増える。人前で発表する機会は小学校のときよりも増えると思う。
- ・大勢の前ではいまだに緊張するが、なんとかやっている。今のうちに人の前で話すことに慣れておくとよいと思う。

〈Q〉中学・高校・大学の先生、友達に吃音のことを伝えましたか？もし伝えた場合は、どのように伝えましたか？

また、伝えなくても困らなかったなどの経験もあれば教えてください。

- ・中学生になる前にことばの教室の先生を通して、中1の担任の先生に伝えてもらった。中学校では、察してくれたり、理解してくれたりする人が増えることもあって、吃音のことをあまり聞かれないから言う必要もなくなった。
- ・親しい友達には伝えたが、気にならない程度だったら伝えていない場合もある。会話中、吃音が出たら伝えるときもある。
- ・英語のスピーチでは、どっても減点しない対応をもらった。高校になると進学面談、就職、人事対策をする先生と一緒に、進学に向けて対応策を考えてもらった。

〈Q〉吃音が出たとき、どうしていますか？

- ・深呼吸するようにしている。
- ・吃音が出ても自分の中で流すようにするなど、気にせず話し続けている。
- ・何もしていない。吃音が出ても、そのままつなげて話している。周りの人には意外とそれほど気にされない。

〈Q〉卒業生のみなさんは、進学後に周りの人数が増えたとき、吃音があることで不安になったり困ったり、学校生活で大変だったりはありましたか？

- ・授業中に先生に当てられて答えるときに、なるべく吃音が出ないように話したり、言い換えしたりして回答するのが大変だった(今も)。
- ・発表する機会が増えるから緊張した。授業中に当てられたときは、答えは分かっているのに答えが出てこないこともあった。

〈Q〉自分の吃音をどう思っていますか？小学校から中学校・高校・大学までの間、気持ちの変化も含めて教えてください。

- ・「いつか、慣れるでしょ。」と思っている。
- ・繰り返しが多く、症状は軽い方だと思う。小学生の時は周りの目が気になって吃音がある自分が嫌だなとマイナスなイメージをもっていたけれど、中・高校生になった今は、個性だと思ってあまり嫌だと思わなくなった。

〈Q〉小学校を卒業しても、ことばの教室に通いたかったですか？

- ・もう自立して、自分でやっていけると思いました。
- ・最初のころは通いたかったけれど、ことばの教室に通わなくても日常的にはそれほど困らなかつた。

卒業生からのメッセージ

失敗を恐れずに、がんばれ！

自分に自信をもとう！

だんだん大きくなるにつれて、吃音をばかにするような人も減ってくるので、それほど気にせず楽しんで大丈夫！

「なんで自分は吃音があるんだろう？」とネガティブに考えてしまうと思うけれど、「吃音は自分の個性だ。」「吃音があるのは自分だけではない。仲間がいる。」とポジティブに考えてほしいです。

吃音があるから知ることができること、学べることがたくさんあるので、今ことばの教室に通っている時間は大事にしてください。通っていたときに教えてもらったことが役に立つときがあると思います。

「吃音があるから人と話さない。」ではなく、自分が伝えたいことや思いを諦めずに相手に伝えてほしいです。自分のことを理解してくれる人、話を最後まで聞いてくれる人は絶対にいるから大丈夫！自信をもって毎日ありのままの自分で過ごしてください！



保護者懇談会では・・・

交流会の裏では、卒業生の保護者の方 1 名をお迎えして、8 名で懇談会を行いました。会の中では、お子様が最近興味をもっていることや吃音の様子、予めいただいていた質問内容を話題に、たくさんの意見交換ができました。また、卒業生の保護者の方からの経験談やご助言など、貴重なお話を聞ける機会となりました。当日は時間の都合上、紹介できませんでしたが、他の卒業生の保護者の方からも貴重なご意見をいただいているので、紹介させていただきます。

〈Q〉現在のお子さんの吃音の様子はどうか？小学生の頃と変化はありますか？

- ・小学生の頃より 2 割くらい吃音が減った気がします。
- ・言い換えの技術が上がっているので、あまり目立たなくなっています。
- ・親の前では変わらず、ずっと吃音が出ています。仲良くなったり場に慣れたりすると吃音が増えるようですが、緊張する場面や慣れていない人の前だと、吃音はあまり出なくなることを本人も理解しています。

〈Q〉お子さんと接するときに、ご家庭で日頃気を付けていることはありますか？(吃音に関することで)

- ・吃音で言葉につまって言いたいことが言えず黙ってしまっても、話し始めるまでじっと待ちます。言葉が出なくて「いや。」と諦めたときには「何が言いたかったの？」とは聞かず、諦めた本人の判断を受け入れます。
- ・吃音のことを避けずにしています。
- ・最後まで本人の話を笑わず最後まで聞いてあげて、必要に応じて相談にのれるとよいと思います。本人が安心して過ごせる環境を大切にしているので、家ではどもりながらも、話が止まらないぐらいたくさん話をしています。

〈Q〉ことばの教室などサポートしてくれる人がいなくなって、どう対応していますか？また、困ったときに学校や学校以外で相談できる人はいますか？

- ・担任の先生を通して、全教科の先生・部活の先生に吃音への配慮と対応をしてもらっています。日々、吃音で悩んでいますが、決められた台詞を言う機会が今のところないので、大きい問題はないです。各教科の先生が配慮してくださっているのを本人が気付いて親に伝えてくれたときには、三者面談など担任の先生と話す機会にお礼を伝えるようにしています。関わる色々な先生が連携して配慮してくださるので、本当に有難いです。ただ、話すことを避けて発言をしなかったり、発表を短時間で済ませたりするので、テストの点が取れても、積極性が評価されずに成績に影響しているのを悔しがっています。また、慶應義塾大学病院の吃音外来に年に 2 回通っています。学校(担任、スクールカウンセラー)・医療機関と連携しながら迅速に対応していくことを心がけています。
- ・中学校に入って初めの頃は大学附属病院に通っていましたが、本人の気持ちの様子に合わせて通わなくなりました。学校では、自分の吃音の特性を本人が理解していたので特に困るようなこともありませんでした。

〈Q〉中学に上がったときに、吃音の症状がひどくなることはありましたか？また、そのときにどのように乗り越えたかを教えてください。

- ・新しい環境になった先では吃音あまり出ないため、家ではどもっていても、学校では吃音があることを周りは 2.3 ヶ月気付かなかったようです。本人自身がいつものパターンだとよく理解していたので、冷静に対応できていました。
- ・吃音の症状がひどくなることはありませんでした。今のところ無遅刻無欠席で学校には通っていますが、吃音が不安で学校に行きたくないと言うこともあります。日直や職員室に入る際の言葉がつまって言えないなど、苦難はありますが、周りの友達と一緒にいってくれたり励ましてくれたりしてくれるそうです。

〈Q〉小学生の保護者の方に向けて

- ・小学校5・6年生がピークでこのまま不登校になってしまうのではないかと不安になりましたが、困っている原因を明確にして、担任の先生・病院・ことばの教室の先生に相談をして配慮してもらいました。本人も吃音について学び、今は「私、吃音でこの言葉が言えないの。だから助けて。」と友達に言い、助けてもらうスキルを身に付けました。今は無遅刻無欠席で学校に行っているので嬉しく思います。何か問題があった際は小さいことでも即対応するように心がけています。
- ・分かっていることへの安心感は大きいと思うので、子ども自身が吃音のことを理解すること、知ることは大切だと思います。ことばの教室の時間を親子で楽しんでください。

吃音交流会

※写真掲載欄

保護者懇談会